

大学院リサイタルシリーズ④

Musik Briefe

～想いを音に乗せて～

2021年10月9日(土)

15:00開演(14:40開場)

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

■ プログラム

トロンボーン独奏 トロンボーン 望月 稜香
S.ストヨフスキー / 幻想曲
ピアノ 小松 祥子
L.グロンダール / トロンボーン協奏曲
N.フェット / 愛の手紙

ソプラノ独唱 ソプラノ 村田 涼
W.A.モーツァルト / クローエに K.524
ピアノ 漆間 夏希
W.A.モーツァルト / ラウラに寄せる夕べの想い K.523
W.A.モーツァルト / 歌劇《後宮からの誘拐》 K.384 より
”ああ、私は恋をしていて、とてもしあわせでした”
”ありとあらゆる拷問が”

クラリネット独奏 クラリネット 元村 理乃
C.M.v.ウェーバー / クラリネット協奏曲 第2番
ピアノ 木幡 律子
第1楽章 アレグロ
第2楽章 アンダンテ・コン・モート
第3楽章 アラ・ポラッカ

■ 曲目解説

S.ストヨフスキー / 幻想曲

ストヨフスキーはポーランドに生まれたピアニストであり作曲家。18歳でパリへ留学し、ピアノと作曲を学んだ。当時の彼の作風はブラームスやチャイコフスキーの影響を大いに受けていた。20世紀に入るとアメリカへ渡り、ごくわずかな期間で名を揚げた。ニューヨークでは、ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団によって演奏会で自作を取り上げてもらうことの出来た最初のポーランド人作曲家という栄誉にあずかった。本作品は、パリ国立音楽院のコンクールのために1967年にLuduc社より出版された作品。パリで学んだ作風が強く感じられ、表現力と技量を必要とする作品である。

L.グロンダール / トロンボーン協奏曲

グロンダールはデンマークの作曲家。作曲をルドルフ・ニールセンに学ぶ。交響曲や協奏

曲、室内楽曲も残しているが、近年でも良く知られ演奏頻度の多い作品が本作品である。本作品は、1924年グロンダールがイタリア滞在中に彼の友人であったコペンハーゲン王立管弦楽団トロンボーン奏者「ヴィルヘルム・オールクロー」のために作曲された。3楽章構成で、3楽章にはイタリアの美しい景観を彷彿させるような旋律も登場する。また、全体を通してコペンハーゲンの街並みやエーレスンド海峡を感じさせる雰囲気を持っており、イタリアに滞在しながらも、故郷や旧友を想うグロンダールの心情がうかがえる。近年では、国内外問わずにコンクールの課題曲としてレパートリー必須の作品となっている。

N.フェットロ / 愛の手紙

フェットロはイタリア生まれのトロンボーン奏者であり作曲家。2003年以来、ニューヨーク・フィルハーモニーのトロンボーン奏者「Joseph Alessi」と多くの音楽プロジェクトを立ち上げてきた。Alessi Publicationsの作曲家兼オフィシャルアレンジャーを務めている。本作品は、J.Alessiに捧げられた作品であり、2009年のスライドファクトリーにてJ.Alessi本人により初演された。全体を通して大変美しい旋律が魅力的な作品である。

W.A.モーツァルト / クローエに K.524

《クローエに》は、1787年にヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトによって作曲された。作詞はヤコービ。「お前の青い大きな眼をのぞくと、私の心はときめき、燃える。私の酔眼を雲がおおっても、お前のかたわらに座るだけで幸せだ。」と、激しい恋情を歌う。明らかにロンド形式の形態をとっており、2分の2拍子の旋律も器乐的要素をそなえているといえる。

W.A.モーツァルト / ラウラに寄せる夕べの想い K.523

《ラウラに寄せる夕べの想い》もまた、1787年にヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトによって作曲された。「夕べがきた。人生の美しいときが過ぎ去ってゆく。私に涙を送り、やさしい眼差しをなげかけてくれれば、涙は私の王冠のなかの真珠となろう。」と歌い、歌唱声部の穏やかで甘美な旋律と伴奏の分散和音形によって、深い哀愁の情が表現されている。

W.A.モーツァルト / 歌劇《後宮からの誘拐》 K.384 より

歌劇《後宮からの誘拐》は、クリストフ・フリードリヒ・ブレッツナーの台本をゴットフリード・シュテファニーが自由に改編し、1781年から82年にかけて、モーツァルトが作曲した全3幕のジングシュピールである。舞台はトルコ太守の荘園。主人公のベルモンテが召使のペドリロと協力し、トルコ太守ゼーリムの後宮から、恋人であるコンスタンツェを救い出すという物語である。

”ああ、私は恋をしていて、とてもしあわせでした”は、第1幕第7場で、恋人のベルモンテと引き離されたコンスタンツェが歌うアリアである。「私は恋をしていて、本当にしあわせでした。愛の苦しみも知らずに…」と歌い、「でも、私のよるこびは消え去り、私の身には悲しみが宿っています。」と現在の境遇を嘆く。

”ありとあらゆる拷問が”は、第2幕第3場でコンスタンツェが、太守ゼーリムに、愛を受け入れないならばおそろしい拷問にかけると脅され、歌うアリアである。「ありとあらゆる拷問が私を待ちうけていようとも、私を恐れさせるものは何もない。最後には死が私を解放してくれます。」と強い決意を歌う。

C.M.v.ウェーバー / クラリネット協奏曲 第2番

1811年ウェーバーは、クラリネット奏者ハインリッヒ・ベールマンに出会う。ベールマンは、ミュンヘンの宮廷楽団に勤めながらソリストとしてもヨーロッパ各地を巡り人々から称賛を受ける名奏者であったと言われている。当時、クラリネットはまだ歴史も浅い楽器であったが、ベールマンは10のキーを備えた最新のクラリネットを操り、とても滑らかで華麗な演奏を披露したという。演奏旅行をきっかけに知り合ったウェーバーは早速1つくり熱との小協奏曲を作曲する。ミュンヘンでこの小協奏曲が初演された際、臨席したバイエルン王マクシミリアンはベールマンの妙技に感嘆し、即座にウェーバーに2曲の協奏曲を作曲するように求めた。こうして書き上げたうちの1つがクラリネット協奏曲第2番である。クラリネット協奏曲第1番に比べて華やかな曲想である。古典派では、明るいや暗いといった表現はまだ引き出しの数が多くはなかったが、この曲は役柄の表情の数が増え、1つ1つの表現にそれぞれの感情が埋め込まれており、とても豊かな曲となっている。

第1楽章 アレグロ

行進曲風のリズムが全編に散りばめられている。管弦楽による第1、第2主題の提示に続き、クラリネットが持ち前の幅広い音域を活かし、3オクターブの跳躍によって印象的な登場をする。おおむねソナタ形式の型通りに進み、再現部の第1主題は管弦楽だけで扱われる。カデンツァを挿入する箇所は用意されていないが、その代わり終盤にクラリネットが無伴奏で急速なアルペジオを奏する部分がある。

第2楽章 アンダンテ・コン・モート

憂いに満ちたロマンス。中間部ではクラリネットに技巧的な動きが現れ、「レスタチーヴォ」と記された楽節で劇的な振る舞いを見せるため聞き所である。

第3楽章 アラ・ポラッカ

ポロネーズ風の軽快なフィナーレ。基本的には小ロンド形式を取り、多彩な楽想が提示される。コーダには、当時のクラリネットの性能の限界に挑むようなパッセージが散りばめられている。

■プロフィール

望月 稜香 トロンボーン

長野県松本市出身。高松第一高等学校音楽科を経て、明星大学教育学部音楽コースを成績優秀者として卒業。第1・2回山口トロンボーンコンペティション奨励賞受賞、第31回香川ジュニア音楽コンクール金賞受賞、第70回TIAAクラシック音楽コンサート本選出場、同コンサート本選にて審査員賞受賞。第6回日本トロンボーンコンペティション〈独奏部門〉一般の部にて2位。令和2年度大学院コンチェルトの夕べにて、ソリストとしてH.トマジ作曲《トロンボーン協奏曲》を、洗足学園音楽大学大学院室内管弦楽団と共演。

Fabrice Millischer 氏のプライベートレッスン受講。

これまでにトロンボーンを、眞砂美輪、村山修一、吉川武典、倉田寛、府川雪野の各氏に師事。室内楽を林辰則氏に師事。現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻管楽器コース2年在学中。



村田 涼 ソプラノ

鹿児島県出身。大分県立芸術文化短期大学音楽科声楽コース首席卒業。同専攻科修了。在学中、実技試験成績優秀者による演奏会に多数出演。第71回、第73回全日本学生音楽コンクール北九州大会声楽部門大学の部入選。オペラ《魔弾の射手》に介添えの少女役で出演。これまでに声楽を、原口匡、宮本修、愛甲久美、増田のり子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻2年在学中。



元村 理乃 クラリネット

12歳よりクラリネットを始める。

これまでに、クラリネットを小野寺緑、松本健司、亀井良信、室内楽を松本健司、菅井春恵、大浦綾子、ピアノを千歩紗織、北村弥生、塩塚美知子、ソルフェージュを荒玲子の各氏に師事。第29回日本クラシック音楽コンクール全国大会に出場し、優秀賞を受賞。

洗足学園音楽大学管楽器コースクラリネット専攻卒業。現在、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻管楽器コース1年に在学中。

